

研修カリキュラム表（介護職員初任者研修課程）

事業者名：一般社団法人小規模ケア研究会

※実施内容については、要綱別紙2「介護職員初任者研修における目標、評価の指針」を網羅すること。

研修カリキュラム（要綱別紙1）		実施計画				
講義・演習（実習）		カリキュラム名・時間数				実施内容
1 職務の理解	6時間	時間数	うち通学	うち通信	1 職務の理解	
(1) 多様なサービスの理解		2.5	2.5	/	(1) 講義及び演習：介護保険や保険外サービスについて講義を行い、身近なサービスを含め理解を深める	
(2) 介護職の仕事内容や働く現場の理解		3.5	3.5	/	(2) 講義及び演習：視聴覚教材にて実際の現場をできるだけ具体的にイメージできるようにする。	
2 介護における尊厳の保持・自立支援	9時間	時間数	うち通学	うち通信	2 介護における尊厳の保持・自立支援	
(1) 人権と尊厳を支える介護		6	6	/	(1) 講義及び演習：人権と尊厳について講義を行い、演習にて尊厳を支えるということはどういうことを理解する。	
(2) 自立に向けた介護		3	3	/	(2) 講義及び演習：自立に向けた介護について講義を行い、本当の自立支援ということはどういうことを理解する	
3 介護の基本	6時間	時間数	うち通学	うち通信	3 介護の基本	
(1) 介護職の役割、専門性と多職種との連携		3	3	/	(1) 講義及び演習：講義を行った後、家族による介護と専門職による介護の違いについて理解する。	
(2) 介護職の職業倫理		0.5	0.5	/	(2) 講義及び演習：講義を行った後、演習にて介護職としての社会的責任などについて理解を深める	
(3) 介護における安全の確保とリスクマネジメント		2	2	/	(3) 講義及び演習：講義を行った後、演習にて事故や感染などのリスクについて理解する	
(4) 介護職の安全		0.5	0.5	/	講義及び演習：講義を行った後、演習にてストレスマネジメントのあり方等について理解する	

4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 9時間	
(1) 介護保険制度	
(2) 障害者総合支援制度及びその他の制度	
(3) 医療との連携とリハビリテーション	
5 介護におけるコミュニケーション技術 6時間	
(1) 介護におけるコミュニケーション	
(2) 介護におけるチームのコミュニケーション	
6 老化の理解 6時間	
(1) 老化に伴うこととからだの変化と日常	
(2) 高齢者と健康	
7 認知症の理解 6時間	
(1) 認知症を取り巻く状況	
(2) 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	
(3) 認知症に伴うこととからだの変化と日常生活	
(4) 家族への支援	

4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携	時間数	うち通学	うち通信
(1) 介護保険制度	4	4	/
(2) 障害者総合支援制度及びその他の制度	2	2	/
(3) 医療との連携とリハビリテーション	3	3	/
5 介護におけるコミュニケーション技術	時間数	うち通学	うち通信
(1) 介護におけるコミュニケーション	3.5	3.5	/
(2) 介護におけるチームのコミュニケーション	2.5	2.5	/
6 老化の理解	時間数	うち通学	うち通信
(1) 老化に伴うこととからだの変化と日常	3	3	/
(2) 高齢者と健康	3	3	/
7 認知症の理解	時間数	うち通学	うち通信
(1) 認知症を取り巻く状況	1.5	1.5	/
(2) 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	1.5	1.5	/
(3) 認知症に伴うこととからだの変化と日常生活	1.5	1.5	/
(4) 家族への支援	1.5	1.5	/

4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携	
(1) 講義及び演習：介護保険制度について講義を行い、演習にて概要やケアマネジメントの理解を深める	
(2) 講義及び演習：講義を行った後、演習にて医行為の考え方や、一定の要件のもと介護職が行える医行為を理解する。	
(3) 講義及び演習：基本的な考え方などの講義を行った後、演習にて障害福祉サービスなどの理解を深める。	
5 介護におけるコミュニケーション技術	
(1) 講義及び演習：基本的なポイントなどの講義を行い、言語的・非言語的コミュニケーションを体験し、伝えられない要因と重要性を理解する。	
(2) 講義及び演習：記録や報告の重要性などの講義を行い、演習にて記録の記載方法を体験し、内容・方法を検討し発表までつなげる。	
6 老化の理解	
(1) 講義及び演習：老化に伴いこととからだの変化の講義を行い、演習にて様々な変化に着目した心理的特徴の理解を深める	
(2) 講義及び演習：講義を行った後、演習にて疾病の症状や訴え、生活上の留意点などの理解を深める	
7 認知症の理解	
(1) 講義及び演習：ケアの理念などの講義を行い、演習にて現在の状況やケアの考え方の理解を深める	
(2) 講義及び演習：講義において認知症の理解を深め、演習にて健康管理の重要性などの理解を深める	
(3) 講義及び演習：認知症利用者の生活障害などの講義を行い、演習にて具体的な関わり方の理解を深める	
(4) 講義及び演習：家族への支援の講義を行い、演習にて家族のストレスやレスパイトケアなどの理解を深める	

8 障がいの理解		3時間
(1) 障害の基礎的理解		
(2) 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識		
(3) 家族の心理、かかわり支援の理解		
9 ころとからだのしくみと生活支援技術		7.5時間
ア 基本知識の学習		10~13時間
(1) 介護の基本的な考え方		
(2) 介護に関するころのしくみの基礎的理解		
(3) 介護に関するからだのしくみの基礎的理解		
イ 生活支援技術の講義・演習		50~55時間
(4) 生活と家事		
(5) 快適な居住環境整備と介護		
(6) 整容に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護		
(7) 移動・移乗に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護		
(8) 食事に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護		

8 障がいの理解	時間数	うち通学	うち通信
(1) 障害の基礎的理解	0.5	0.5	/
(2) 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	2	2	/
(3) 家族の心理、かかわり支援の理解	0.5	0.5	/
9 ころとからだのしくみと生活支援技術			
ア 基本知識の学習	時間数	うち通学	うち通信
(1) 介護の基本的な考え方	4	4	/
(2) 介護に関するころのしくみの基礎的理解	3	3	/
(3) 介護に関するからだのしくみの基礎的理解	3	3	/
イ 生活支援技術の講義・演習	時間数	うち通学	うち通信
(4) 生活と家事	4.5	4.5	/
(5) 快適な居住環境整備と介護	4.5	4.5	/
(6) 整容に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護	7	7	/
(7) 移動・移乗に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護	7	7	/
(8) 食事に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護	7	7	/

8 障害の理解	
(1) 講義及び演習:障害の基礎について講義を行い、演習にて概念やICFについてグループ討議にて理解を深める	
(2) 講義及び演習:障害の医学的側面などの講義を行い、演習にて各障害の特徴や支援の考え方の理解を深める	
(3) 講義及び演習:障害者家族への支援の講義を行い、演習にて家族のストレスやレスパイトケアなどの理解を深める	
9 ころとからだのしくみと生活支援技術	
ア 基本知識の学習	
(1) 講義及び演習:講義にて基本的な考えを行い、演習にてICFや法的根拠に基づく介護を理解する	
(2) 講義及び演習:ころのしくみを講義にて行い、記憶の構造や意欲を支援に結びつけることの意味を深める	
(3) 講義及び演習:講義にてからだのしくみを行い、演習にて人体の構造やボディメカニクスの理解を深める	
イ 生活支援技術の講義・演習	
(4) 講義及び演習:講義にて家事と生活の理解を行い、演習にて機能や基本原則の理解を深める	
(5) 講義及び演習:住居環境の基礎知識を講義にて行い、演習にて身体状況に合わせた介護や環境整備の理解を深める	
(6) 講義及び演習:講義にて整容の意義を行い、実技演習にて着脱介助の理解を深める	
(7) 講義及び演習:講義にて移動・移乗に関するからだのしくみを行い、実技演習にて移乗・移動介助の理解を深める	
(8) 講義及び演習:講義にて食事の意味や環境整備の方法を行い、実技演習にて食事介助の理解を深める	

第1-2号様式

(9) 入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	(9) 入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	7	7	/	講義及び演習:講義にて入浴や清潔の意味や環境整備の方法を行い、実技演習にて全身清拭や部分浴の理解も深める
(10) 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	(10) 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	7	7	/	講義及び演習:講義にて排泄の意味や環境整備の方法を行い、実技演習にて排泄の方法等の理解を深める
(11) 睡眠に関するところとからだのしくみと自立に向けた介護	(11) 睡眠に関するところとからだのしくみと自立に向けた介護	7	7	/	講義及び演習:講義にて睡眠や体位変換の意味や環境整備の方法を行い、実技演習にてベッドメイキングや体位変換の理解を深める
(12) 死にゆく人に関するところとからだのしくみと終末期介護	(12) 死にゆく人に関するところとからだのしくみと終末期介護	3	3	/	講義及び演習:講義にてターミナルケアの考え方や留意点を行い、実技演習にて対応方法や介護職の役割の理解を深める
ウ 生活支援技術演習 10~12時間	ウ 生活支援技術演習	時間数	うち通学	うち通信	ウ 生活支援技術演習
(13) 介護過程の基礎的理解	(13) 介護過程の基礎的理解	5	5	/	講義及び演習:講義にて介護課程の目的や意義を行い、個別援助計画の作成演習にて展開の理解を深める
(14) 総合生活支援技術演習	(14) 総合生活支援技術演習	6	6	/	講義及び演習:講義にて事例の意義や留意点を行い、演習にて事例に基づき検討をし、実技演習にて理解を深める。知識と技術の評価テストを行う。
10 振り返り 4時間	10 振り返り	時間数	うち通学	うち通信	10 振り返り
(1) 振り返り	(1) 振り返り	3	3	/	講義及び演習:講義にて研修での学びを振り返り、今後継続して学ぶべきことなどの検討をした後、発表まで繋げ理解を深める
(2) 就業への備えと研修修了後における継続的な研修	(2) 就業への備えと研修修了後における継続的な研修	1	1	/	講義及び演習:講義にて働く現場における継続的学習等を行い、演習にてキャリアパスやOJTなどの理解を深める
追加カリキュラム		130	130	0	
計 (130時間)	計 (130時間)				

※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。

※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。

※ 時間配分の下限は、30分単位とする。

※ 項目ごとに時間数を設定すること。

※ 実施内容には、講義内容、演習の実施方法、通信学習課題の概要等を記載すること。(別紙でも可)

※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。